

それでも住みたいまちへ

それでも住みたいまちへ

地震による堤防決壊や台風による浸水被害、地域全体の浸水化など、住むに当たり選択が難しいリスクがある津南市。「それでも住みたい」と思わせるまちに向かうための継続的な取組を促すことを目的とした提案。

まちづくり

名古屋への利便性と古いまちなみ

津市から名古屋までは車で25分、JR津浦線が、個人事業主や小企業を支援する。名古屋市内の会社と打合せが可能な立地です。SOHO住宅として、日中に高層ビルが立ち並ぶ名古屋の街並みと、古いまちなみを併せ持つ。地域の活性化に貢献する。

まちなみ「人の生活」の景色

「まちなみ」は人の生活の風景。そこには人々の生活が感じられ、まちの賑わいを感じることができ、まちの活性化につながる。各階には人の生活の風景が感じられ、まちの賑わいを感じることができ、まちの活性化につながる。

住宅のデザインコード

住宅のデザインコードは、住宅のデザインコードを定める。新築時に適用する理由、保存すべき理由を定める。

建築面積/10-5/10
瓦葺き屋根に合わせる。一般住居では、2.0m以下に抑える必要がある。

中庭設置
遊歩帯1階部分に0.9m以上の高さを確保。ボート桟の中間部に設置し、住宅全体の開放感を高める。

階高は2階部分から1.4mまで
階高が2階部分から1.4mまでとする。2階以上の階高は2.0m以下とする。

水害対策

被災時の緊急対応

避難時の対応
災害時に被災した場合、避難先には避難先が用意できず、浸水に巻き込まれる危険性がある。避難先が用意できず、浸水に巻き込まれる危険性がある。

避難時の対応
1階や2階部分に避難先が用意できず、浸水に巻き込まれる危険性がある。

1階に上るための緊急避難用エレベーター
避難時、車椅子の活用など高齢者や障害者への避難行動が困難な人がいる場合に備え、1階から2階までのエレベーターを設置し、避難を支援する。

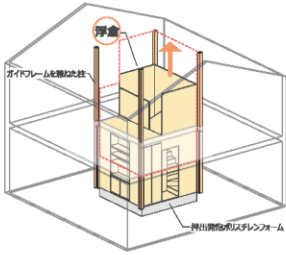
災害後復旧のしやすさ・損害の軽減

被災後は、復旧にかかるコストの削減が求められる。浸水時の被害軽減が求められる。以下の項目に配慮し、被害を軽減する。

1階の床高を上げる
1階の床高を上げることで、浸水時の被害を軽減する。

外壁と上下部を断熱し、復旧時に下部のみ取り換え、補修

スロープを設ける
浸水時に400mm程度は、スロープを設けることで、復旧時の作業を軽減する。



浮倉造り

押し出されたパイプフレーム(柱)は、0.3トンの水(柱1)の重みを利用し、2階は350mm程度の厚みを持つ。2階は350mm程度の厚みを持つ。2階は350mm程度の厚みを持つ。

地震対策

耐震性は筋交いで等級3を確保

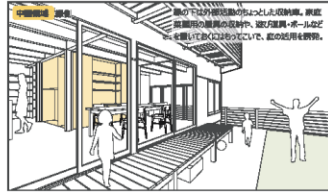
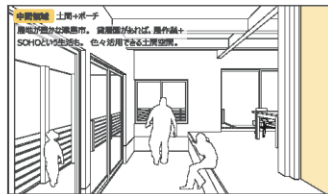
浸水時には、筋交いが壊れてしまえば、耐力が低下し、余震に対する耐震性が低下する。

被害状況に応じた復旧対応

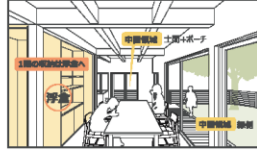
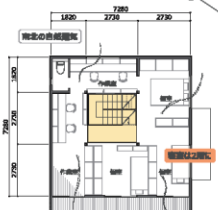
浸水による被害は、浸水した部分の被害が大きい。完全に被害を受けた部分は、浸水した部分の被害が大きい。完全に被害を受けた部分は、浸水した部分の被害が大きい。

提案敷地：津南市中地町1丁目

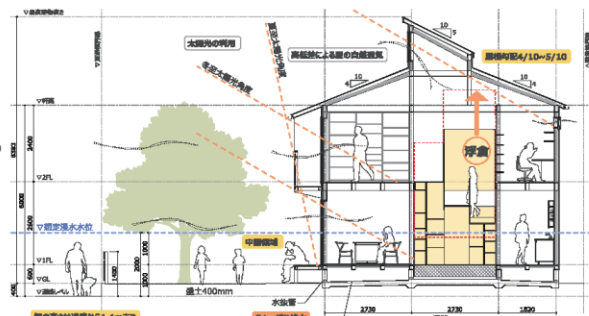
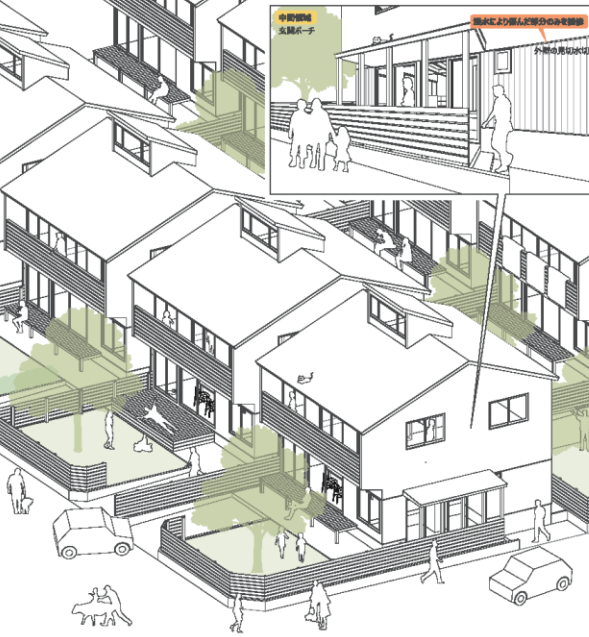
津南市中地町1丁目は、津市から徒歩10分程度の立地。津市から徒歩10分程度の立地。津市から徒歩10分程度の立地。



2階平面図 S=1/100



配置図兼1階平面図 S=1/100



断面図 S=1/60



地震による堤防決壊や台風による浸水被害、地域全体の液状化など、住むにあたり選択しづらいリスクがある津島市。「それでも住みたい」と思わせるまちになるための提案が必要になります。住宅の一般モデルとする上で、水害や液状化に対する安全性の確保や被害の軽減が必要です。しかし、そのために大きなコストがかかってしまうと、一般モデルとはなりません。このバランスを取りながら具体化したものが、「浮倉造り」になります。(嶋田裕也)

【審査委員講評】

難波和彦審査委員長

住宅の中央付近に、4本柱で囲んだ階段室を置き、日常的には上下の縦動線として使用しながら、洪水時には2階の生活空間の備蓄倉庫ともなる「浮倉」のある家の提案である。浮倉を持つ住宅のコスト的メリットとデメリット比較や、浮倉の浮力と収納量の計算などはなされているが、それ以上の提案に欠ける点が惜しまれる。

朝岡市郎審査委員

水害で部屋が浮くというユニークな提案である。この提案は新築だけでなく既存の住宅の改修にも採用可能だと思う。出来れば耐震シェルターとしての機能があればもっと良かったのではと思うが、階段が浮く必要があるかどうかは少し疑問が残る。

生田京子審査委員

住宅の中に水で浮き沈みするコアを設置するもので、コアは収蔵庫となっています。その仕掛けが、平常時も住空間の魅力となるような提案が説明されると、可能性が開けそうです。

川崎浩司審査委員

家屋の中央部に、「浮倉」と呼ばれる、床上浸水したときに浮力で浮上する空間を導入し、洪水、高潮、津波などへの新しい水害対策を提案しており、オリジナリティーが高いといえる。

清水裕之審査委員

建物の一部に浮倉を挿入するというアイデアは、既存建物への改修提案としても有効であり、その意味で面白い提案であった。ただ、タウンハウスのようなたたずまいは、いろいろな既存住宅にも適用可能という強みを消してしまっているように思えた。また、浮倉の内容についても、もう少しアイデアが欲しかった。

日比一昭審査委員

浸水リスクの高いエリアでの住宅モデルとして、水の浮力でセンターコアが浮上する「浮倉造り」の提案は大変興味深い。しかし、実際は大規模地震時には、建物自体にかなりの変形が想定される中で、このシステムがしっかり機能するかという疑問が残り、高得点を与えることができなかった。